

昭和47～49年度指定調査研究総合助成事業

亜熱帯地域のスッポン養殖技術研究

沖縄県水産試験場八重山支場

島袋新功 照屋忠敬 嘉数 清 新垣盛敬

1、産卵について

スッポンの産卵について、当水試における試験及び地元養殖場の実態調査の結果をまとめた。

(1) 親の大きさと産卵数、卵重量及び卵径

スッポンは、体重300gより交尾を行ない、400gより産卵する。0.8Kgの親は、1回当たり平均産卵数9(4～18)個、平均卵重量2.91(1.91～4.56)g、平均卵径1.73(1.46～2.04)cm、1.2Kgの親は、1回当たり平均産卵数15(6～29)個、平均卵重量4.29(2.70～6.34)g、平均卵径1.95(1.63～2.38)cmの卵を産む。親は大きい程産卵数が多く卵の大きさ及びふ化稚亀も大きい。また、若年親では、未受精卵が多い傾向を示した。採卵用親としては大きい方が望ましい。

(2) 交尾及び産卵時期と産卵回数

スッポンの交尾は、3月中旬より11月中旬まで行なり。好天で暖かいときは2月上旬より観察された。産卵は、3月から10月まで行ない、最盛期は7月で5～9月に全体の約80%が産卵される。1頭の親スッポンは、1年間に7～8回産卵すると推察された。

(3) 親の雌雄比と受精率

スッポン養殖において、経済的に最も有利な親の雌雄比を明らかにする目的で、親の性比を変えて受精率を調べた(6月～9月)結果、その雌雄比は5～8:1で、受精率は90%以上を示した。また、受精率は親の性比が一定の場合でも、6、7月をピークとしその前後で低下する季節変動を示した。